

研究タイトル 岩橋さんお酒飲みましょ

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1542052 島田光馬

1. 序論

矢吹研究室では課題研究のレジュメは $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ で書くことになっている。

□□□□□□□□■□□□□□□□□■□□
□□□□□□□■

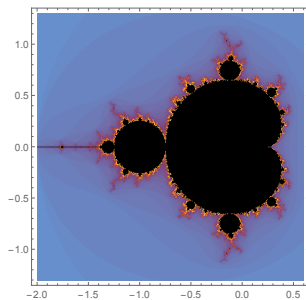


図1 図の挿入例

注意：1 ページいっぱいまで書くこと（右段の下の空行が2行以下ならよい）。

2. 目的

3. 手法

4. 結果

5. 考察

6. 結論

参考文献は文献ファイル（この文書では `biblio.bib`）に記述し、`\cite` で参照する。例：データベースのための問い合わせ言語 `SQL` で数独を解く方法が提案されている [1]。このように参照すると、参考文献リストに自動的に登録される。文献の種類には、雑誌論文 [1] や会議録論文 [2]，卒業論文 [3]，書籍 [4]，ウェブサイト [5] などがある。文献の種類によって必要な項目が異なるため、`biblio.bib` を見て確認すること。

参考文献

- [1] 矢吹太郎, 佐久田博司. `SQL` による数独の解法とクエリオプティマイザの有効性. 日本データベース学会論文誌, Vol. 9, No. 2, pp. 13–18,

2010.

- [2] 矢吹太郎, 増永良文, 森田武史, 石田博之. 知識体系のエリア自動抽出のためのユニット分類手法. 第5回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2013). 電子情報通信学会データ工学研究専門委員会, 日本データベース学会, 情報処理学会データベースシステム研究会, 2013.
- [3] 久保孝樹. チケットを活用するオープンソースソフトウェア開発の実態調査. 卒業論文, 千葉工業大学, 2014.
- [4] 奥村晴彦, 黒木裕介. $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}2_{\text{e}}$ 美文書作成入門. 技術評論社, 第6版, 2013.
- [5] 矢吹太郎. 自分のコードを出力するプログラム. <http://www.unfindable.net/article/self.html> (2012.12.01 閲覧).